

じゆうじか
十字架

どりよく
努力

せいかつ
生活するなかで、いつも努力して（どりよく）いることを考（かんが）え
て、次（つぎ）の空白（くうはく）に書（か）いて下（くだ）さい。



じゆうじか
十字架を背負（せお）う

イエスさまの問（と）いかけに、ペトロは、はつきりと
イエスさまがメシアだと答（こた）えたにもかかわらず、あと
で、イエスさまをいさめ始（はじ）めたので、おこられていま
す。

ペトロは、イエスさまに、何（なに）を期（きたい）待（たい）していたの
でしょう。

イエスさまは、自（じ）分（ぶん）の十（じゆう）字（じか）架（か）を背（せ）負（お）いなさいとい
われます。

私（わたし）は神（かみ）さまを信（しん）じますとい（い）って、ただ神（かみ）さまか
ら何（なに）かをしてもらったり、神（かみ）さまから何（なに）かしてもらった
りすることだけを期（きたい）待（たい）してはいけな（い）いのです。自（じ）分（ぶん）も
努力（どりよく）して、できるだけのことをする必（ひつ）要（よう）があるのです。

もし、人が自分で努力して、何かをするつもりがなければ、つまり、自分の十字架を背負わなければ、イエスさまを、メシア、すなわり、キリストと呼ぶ資格がないのです。

そのためには、毎日の小さな努力の積みかさねが大切なのです。努力もしないで、人から何かをしてもらうことを期待している人は、イエスさまの弟子にふさわしくありません。

どんなことでもいいから、自分でできることを見つけ、努力して実行することが大切なのです。

そうでないと、いくら神さま助けてくださいと言っ

ても、神さまは、お前なんか知らないと言われる。どうしたら、少しでも努力して実行できるか考えてみましよう。

